



「親子で土偶づくり!」を開催しました

文化財に興味・関心をもっていただくため、小学生を対象に土偶作りの体験イベントを令和5年8月14日(月)に開催いたしました。保護者の方も交えての賑やかな催しとなりました。実在の土偶を再現したのからオリジナリティに富んだものまで様々な土偶が作られました。

公益財団法人印旛都市文化財センター 第21回遺跡発表会を開催しました

令和6年2月3日(土)に国立歴史民俗博物館講堂において開催いたしました。千葉県埋蔵文化財調査センターの西野雅人所長を講師としてお招きし「謎に包まれた縄文文化繁栄の地-柏の縄文中期集落群-」という題目で講演を行っていただきました。来場者は215人で、多くの方々に縄文時代の柏周辺地域の様子について関心を深めていただきました。なお、今回の発表は当センター公式YouTubeにて配信します。令和6年度も引き続き開催する予定です。



《令和5年度 調査を終えた遺跡》

- 《成田市》堀之内宮ノ台遺跡(奈良・平安時代)
《佐倉市》佐倉城跡三ノ丸(第2次)(近世)
神楽場遺跡(第14次)(縄文・古墳時代)
宮本宮後遺跡(C地区第3次)(縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代)
《四街道市》古屋城跡(中世)
《八街市》大久保邸屋敷跡(第4地点)(近代)
柳沢牧藤株鶴ヶ縄手野馬土手(第3地点)(近世)
《印西市》天神台遺跡(第18地点)(縄文・奈良・平安時代)
天神台遺跡(第19地点)(縄文・奈良・平安時代、中・近世)
西ノ原第1遺跡(旧石器時代、中世)
西ノ原第3遺跡(第3地点)(中世)
《柏市》花戸原遺跡(第25次)(古墳・奈良・平安時代、中世)

《令和5年度 整理作業を終えた遺跡》

- 《四街道市》郷野遺跡(第2・3次)(古墳・奈良・平安時代)
中山城跡(中世)
《酒々井町》下宿粟ノ洲遺跡(第18次)(奈良・平安時代、中・近世)
《八街市》大久保邸屋敷跡(第4地点)(近代)
柳沢牧藤株鶴ヶ縄手野馬土手(第3地点)(近世)
《印西市》前戸遺跡(第6地点)・東海道遺跡(第2地点)(旧石器・縄文・古墳・奈良・平安時代、中・近世)
《柏市》花戸原遺跡(第10~13次)・中馬場(第9・10次)(旧石器・奈良・平安、中・近世)

《令和5年度 整理作業を行っている遺跡》(3月現在)

- 《佐倉市》太田向原遺跡(第8次)(縄文時代、近世)
生谷松山遺跡(縄文・古墳・奈良・平安時代、中世)
《印西市》天神台遺跡(第17地点)(古墳時代)
《栄町》宮前遺跡(古墳・奈良・平安時代)
《柏市》花戸原遺跡(第14、16~18次)・中馬場遺跡(第14次)(古墳・奈良・平安時代)

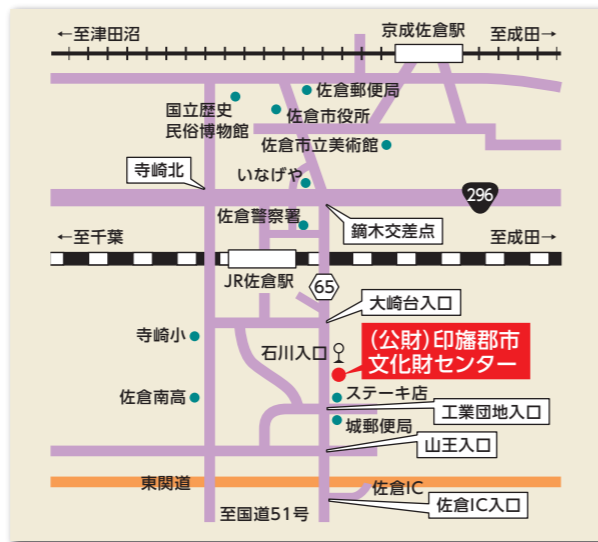
※発掘現場、室内作業は見学いただけます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず事前にご連絡ください。
※本年度の展示は好評につき9月まで延長となります。展示替えのため、次回の展示は10月の開始を予定しております。

《ご案内》

ホームページとスマートフォン版サイトにおいて当センターの最新情報をお伝えしています。ぜひご活用ください。

PCサイト http://www.inba.or.jp

スマホサイト http://www.inba.or.jp/sp



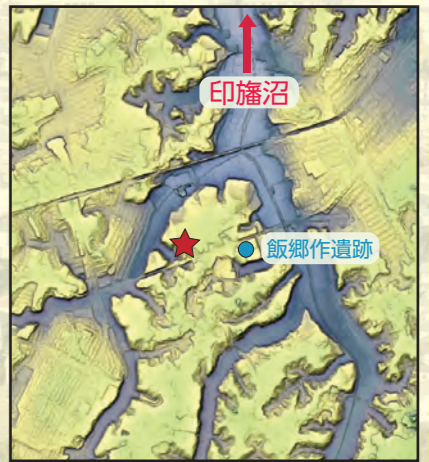
発行・編集 フィールドブック vol.49 公益財団法人 印旛都市文化財センター 〒285-0814 千葉県佐倉市春路1-1-4 電話 043(484)0126(代) FAX 043(484)0126(代) http://www.inba.or.jp (スマホサイト) http://www.inba.or.jp/sp

FIELD BOOK



佐倉市神楽場遺跡(第14次)

神楽場遺跡は、手繰川の西岸の標高約28mの台地上に所在する、縄文時代及び古墳時代の集落遺跡です。今回の第14次調査は墓地の造成に伴い令和5年9月から11月にかけて約2,000㎡を対象に行いました。



周辺地形図(カシミール3D)

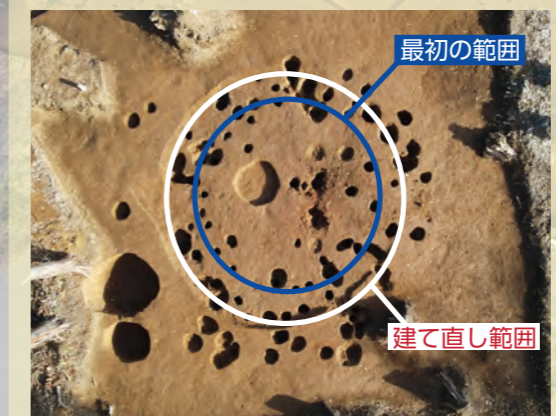
調査では、縄文時代の住居跡を5軒、古墳時代前期の住居跡を3軒検出しました。縄文時代の住居跡では、埋壘炉と呼ばれる、深鉢形の縄文土器を埋め込んだ炉が見つっています。

また、住居の中には、柱穴が二重に廻っているように見えるものがあり、建て直しを行ったものと考えられます。これは、長期的にこの地に暮らしていたことを示すものであり、出土した遺物から縄文時代中期から後期にかけて集落が営まれていたことがわかりました。



住居埋壘炉出土状況

古墳時代の住居跡は、過去に行った神楽場遺跡の別地点での調査でも同様に検出されており、台地上には集落が営まれていたと考えられます。また、神楽場遺跡の東の隣接地には、古墳時代前期の前方後方墳がある飯郷作遺跡があり、この台地上における集落と墓域という関係性がうかがえます。



建て直し住居跡 全景

今回の調査区は台地の端にあたることから、集落の西縁辺部であると考えられます。そのため、集落の中心は、より台地の中央寄りであると推察でき、今後の調査により、遺跡の全容が明らかになることが期待されます。

佐倉市宮本宮後遺跡C地区(第3次)1区~4区



1号墳 (12.6m×12.8m)
(方墳・古墳時代前期)



(写真1) 壺口縁部
(古墳時代前期)

(写真2) 焼失住居跡
(古墳時代前期)



(写真3) 大量の土器
(古墳時代前期)



13号住居跡
(奈良・平安時代)



(写真4) 甕 (奈良・平安時代)



(写真5) 罎
(奈良・平安時代)

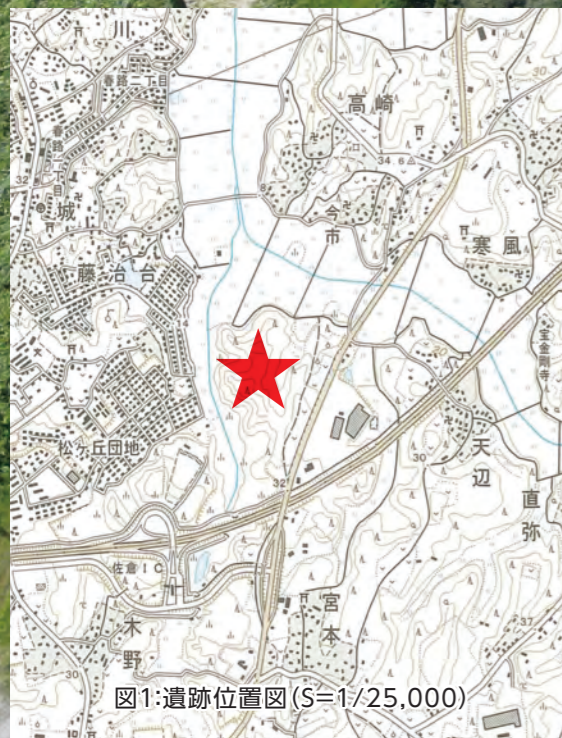


図1:遺跡位置図(S=1/25,000)

宮本宮後遺跡C地区は、印旛沼の南岸、南部川によって浸食された標高約35mの台地上に立地しており、国道51号線沿いの佐倉市高崎字小谷津932番地1他に所在します(図1)。第3次調査では、令和5年4月から21,681㎡を対象に1区~5区に分けて調査を行い、弥生時代の方形周溝墓や古墳時代の方墳、奈良・平安時代の住居跡等を確認しました。

方形周溝墓は全部で8基確認され、遺物はほとんど出土しないものの、一部の土器片やその形態から弥生時代中期のものと考えられます。また方墳は2基確認され、2基とも墳丘部は既に消滅しており周溝のみでしたが、周溝の中から古墳時代前期の装飾が施された壺の口縁部が見つかりました(写真1)。

古墳時代の住居跡が同じ調査区から見つかり、大量の土器とともに燃えた柱材や焼土が認められたことから、焼失住居跡と考えられます(写真2・3)。続く奈良・平安時代の住居跡は14軒確認され、中でも13号住居跡からは煮炊きするための甕や食べ物をよそう須恵器の罎がきれいな状態で見つかりました(写真4・5)。

今回確認された遺構・遺物から、弥生時代~古墳時代は墓域として、続く奈良・平安時代には集落として利用していたことが推測でき、当時の墓域と集落域との関係性を探るうえで重要な遺跡です。